様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２７１０
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１６６９４

研究課題名（和文）現存大蔵経諸本をもちいた〈阿闍世王経〉漢訳諸本に関する文献学的研究

研究課題名（英文）A Study of Chinese Buddhist Canons/Tripitakas: With Reference to the Chinese Versions of the Ajatasatrukaukrtyavinodana

研究代表者
宮崎　展昌（MIYAZAKI, Tensho）

鶴見大学・仏教文化研究所・准教授

研究者番号：７０７７３７２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：漢語仏典の一大叢書である漢語大蔵経は、版本や写本のかたちで種々のものが現代まで伝承されてきた。近年デジタル技術の進歩などもあって、研究者がそれらの資料を扱うことが可能かつ容易になってきた。そうした中で、〈阿闍世王経〉という個別の大乗経典の漢訳諸本を研究対象として取り上げ、現存する版本および写本大蔵経諸本がどのように伝承されてきたのかを解明することを試みた。同時に、現存諸本資料を用いることで、〈阿闍世王経〉漢訳諸本について研究上信頼に足りるテキストの作成を目指した。さらに、同経に関する基礎研究の一環として、チベット語訳からの訳注研究の一部を公表し、諸本対照テキストの公表に向けても準備を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現存する漢訳大蔵経諸本の伝承の過程や相互関係については、それらの来歴や構成などの点から、これまでにある程度明らかにされてきた部分もあるが、本研究では〈阿闍世王経〉の漢訳諸本という個別の事例研究をとおして、版本および写本大蔵経の相互関係について、より具体的、より詳細なかたちで解明することができた。
また、諸本資料を対校して学術的に信頼にたる漢訳テキストの構築を試みるとともに、諸本対照テキストの準備を進めつつ、同経チベット語訳から訳注研究も部分的に提示したが、それらは仏教学を支える文献学的研究の基盤となるものであり、その事例研究の一つに数えることができる。

研究成果の概要（英文）：The Chinese Buddhist Tripitaka (CBT), which is the traditional corpus of Buddhist literature in Chinese, survives in various editions and manuscripts. Recent rapid progress in digital technology has made it possible and easier for researchers to directly investigate these materials. As such, this project focused on the Chinese versions of a particular Mahayana sutra, namely, the Ajatasatrukaukrtyavinidana (AjKV), and examined how the existent (and available) manuscripts and editions of the CBT are related to each other. In addition, after consulting the existing CBT materials as far as possible, I tried to make reliable texts of the Chinese versions of the AjKV. As part of a basic textual study of the AjKV, I published Japanese annotated translations of several chapters of the Tibetan version of the AjKV and have been preparing Tibetan and Chinese collated versions of the AjKV, which will be published in a couple of years.

研究分野：仏教学

キーワード：版本大蔵経　写本一切経　チベット語大蔵経　訳注研究　日本古写一切経　諸本対照テキスト　批判校訂本

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) およそ **100** 年前の大正期より昭和初期にかけて、本邦で刊行が開始された「大正新脩大蔵経」（以下「大正蔵」と略称）は、国際的にも、漢語大蔵経を学術的に研究する際の標準テキストとされてきた。しかしながら、大正蔵にも問題点が少なくないことが近年の研究によって明らかにされ、同時に、同大蔵経が刊行されて以降、研究者らが参照することが可能になった版本大蔵経や写本一切経も相当数に上っている。これらのことから、研究上の標準とされてきた大正蔵について批判的に検討・研究することが必要かつ可能な状況になっている。

(2) 研究代表者は修士課程以来、初期大乗経典のひとつに数えられる〈阿闍世王経〉について文献学的に解明することを目指し、チベット語訳および漢訳 **4** 種（部分訳 **1** 種を含む）の諸本対照テキストおよび蔵訳本からの訳注研究について準備してきた。蔵訳本については、十数本の写本・版本の資料を用いた批判校訂本を準備してきたが、漢訳諸本については、大正蔵の脚注の異読情報にもとづくのみで、テキスト批判は進められていなかった。大乗経典の研究においては、漢訳テキストも他のテキスト同様重要なものでもあり、その批判校訂本を作成する必要があった。

２．研究の目的

上述のような背景のもと、研究代表者がこれまで取り組んできた〈阿闍世王経〉の漢訳諸本について、現在入手可能な漢語大蔵経に関する諸本資料を対校した批判校訂本を準備するとともに、主に諸本資料の異読の共有関係について調査することによって、それらの相互関係についても検討を加える。言い換えれば、〈阿闍世王経〉の漢訳諸本を対象としたケーススタディをとおして、現存する漢語大蔵経諸本資料に関する問題点や課題などを明らかにすることを試みる。

あわせて、〈阿闍世王経〉の蔵訳本にもとづく訳注研究、ならび、同経諸本対照テキストの公表に向けても準備を進め、将来的に、大乗経典の文献学的研究のケーススタディを提示することも目指していく。

３．研究の方法

(1)〈阿闍世王経〉の現存する漢訳 4 種のうち、10 世紀末の宋代に訳出された『未曾有正法経』については訳出年代が新しく、中国において版本大蔵経が開板された後に訳出されていることもあって、大蔵経諸本の間でも異読が極端に少ないことが知られるので、本研究においては検討の対象には含めない。具体的な調査対象とするのは、(a)支婁迦讖訳『阿闍世王経』、(b) 竺法護訳『普超三昧経』、そして部分訳の(c)失訳『放鉢経』の 3 点の漢訳経典である。

上記の〈阿闍世王経〉漢訳 3 点について、中国などで開板された版本大蔵経ならびに日本に伝存する写本一切経の諸本を用いて校合し、批判校訂本の作成を試みる。

(2)　上述のような漢訳諸本の校合に際して明らかになる異読の共有関係などをもとに、現存する漢語大蔵経諸本の相互関係・系統についてもあわせて検討・考察する。

(3) 〈阿闍世王経〉の蔵訳本にもとづく訳注研究について、その一部を雑誌論文のかたちなどで公表する。その蔵訳本についても、新たに、チベット語大蔵経の新出資料を用いた追加の校合作業も試みる。同時に、同経漢訳諸本および蔵訳本、それぞれの批判校訂本を対照したかたちのテキストについても、その全体の将来的な公表を見据えて準備を進める。

４．研究成果

(1)〈阿闍世王経〉漢訳諸本に関する現存漢語大蔵経諸資料を用いた調査

① 竺法護訳『普超三昧経』に関するもの

竺法護訳は、四巻本からなる江南諸蔵のものと、三巻本のからなるもの（開宝蔵を受けたもの、日本古写一切経、および房山石経）の 2 種に大別できる。

三巻本のかたちをとる諸本資料 8 種（高麗蔵初雕本・再雕本、房山石経本、聖語蔵経巻、七寺本、興聖寺本、石山寺本、中尊寺経本）のうち、高麗蔵初雕本と聖語蔵経巻本およびその系統を受ける日本古写一切経諸本が比較的近い関係にあることを確認できた。開宝蔵系とされる高麗蔵初雕本と日本古写一切経諸本が近い系統にある、とみられる他例は、管見の限り、確認されていない。

さらに、日本古写一切経の 5 種（聖語蔵経巻、七寺本、興聖寺本、石山寺本、中尊寺経本）の相互関係について調査したところ、聖語蔵経巻で「唐経」に分類されるものが他の 4 種の祖型に相当することが確認できた。また、七寺本と中尊寺経本の間には明確な近接関係が確認できた。一方、石山寺本には、版本系の大蔵経（おそらく開宝蔵系）を参照した形跡も見てとれた。

一方、四巻本のかたちをとる江南諸蔵 7 種（宮内庁蔵福州開元寺版、増上寺蔵思渓蔵本、同普寧寺蔵本、磧砂蔵本、洪武南蔵、永楽北蔵、嘉興蔵）については、普寧寺蔵本は思渓蔵の覆刻ではないことを確かめ、その普寧寺蔵を磧砂蔵および洪武南蔵が受けていることも確かめることができた。また、調査中の事柄であるが、醍醐寺蔵福州版東禅寺本については、同じ福州版とされる宮内庁蔵の開元寺版よりも、増上寺蔵の思渓蔵本と近い関係にある可能性がかなり高いことが現時点では推測できる。なお、醍醐寺蔵福州版東禅寺本については調査を継続する予定である。

② 支婁迦讖訳『阿闍世王経』に関するもの

支婁迦讖訳はいずれの漢訳諸本も二巻本からなる。

日本古写一切経 6 種（聖語蔵経巻、七寺本、興聖寺本、石山寺本、中尊寺経本、大門寺本（巻下のみ））について調査を試みた。それらの相互関係においては、五月一日経である聖語蔵経巻本が他の 5 種の祖型であることが確認できたが、他に明確な近接関係を読みとることは難しかった。これは、支婁迦讖訳においては異読の数が比較的限られていることも影響しているともに、その背景として考えられるのは、2 世紀後半に訳出された同訳は難解であり、本文も四字句構成にもなっておらず、後世における書写の際にも細心の注意が払われたであろうことが影響している可能性が考えられるだろうか。

江南諸蔵 7 種（宮内庁蔵福州開元寺版、増上寺蔵思渓蔵本、同普寧寺蔵本、磧砂蔵本、洪武南蔵、永楽北蔵、嘉興蔵）については、上記の竺法護とほぼ同様の事象を確認することができた。

③ 失訳『放鉢経』に関するもの

開宝蔵の覆刻とされてきた高麗蔵初雕本と金蔵本では、改行箇所などの点から明確な違いが確認できた。既に先行研究等でも指摘されているように、この 2 種の版本大蔵経は、同じ開宝蔵を覆刻したものとはみなし難いことが、本経についても言える。

また、日本古写一切経 4 種（興聖寺本、石山寺本、名取新宮寺本、金剛寺本）については、いずれの資料の間でも明らかな近接関係を見出すことは難しいものの、興聖寺本については版本系統を参照していた可能性が窺えた。

一方、江南諸蔵 6 種（宮内庁蔵福州開元寺版、増上寺蔵思渓蔵本、同普寧寺蔵本、磧砂蔵本、永楽北蔵、嘉興蔵）の相互関係については、本経の磧砂蔵本は普寧寺蔵本にもとづいたものではなく、思渓蔵にもとづくものであった。そして、それが北蔵や嘉興蔵にも受け継がれているようである。一方、普寧寺蔵本については、上述の 2 経同様、思渓蔵の覆刻ではないとみられるものの、上述

の 2 経とは異なり、その流れは以降の江南諸蔵には受け継がれなかったとみられる。

(2)〈阿闍世王経〉漢訳諸本の批判校訂本の作成

上記のように、3 種の漢訳については入手できた漢語大蔵経諸本の校合作業を終え、それぞれの批判校訂本の作成を試みた。これらは〈阿闍世王経〉諸本対照テキストに含まれるかたちで近い将来に公表する予定である。

(3)〈阿闍世王経〉蔵訳本にもとづく訳注研究と諸本対照テキストの公表に向けた準備

博士論文では扱えなかった第 I 章～第 IV 章、第 XI 章前半について、蔵訳本にもとづく訳注研究を雑誌論文のかたちで公表した。博士論文に含まれる第 V 章から第 X 章の部分と、未公表の残余の部分も合わせて、2022 年度末までに単著として、蔵訳本〈阿闍世王経〉からの訳注研究を出版する準備を進めている。

また、同経の蔵訳本テキストについても、新出資料である Dolpa 写本やブータン・カンギュル諸本を新たに用いて校合作業を行なった。同経蔵訳本の批判校訂本についても、諸本対照テキスト全体の公表に向けて検討を加えていく。

(4) その他の関連する成果

大蔵経に関する概説書として、『大蔵経の歴史–成り立ちと伝承』（単著、方丈堂出版）を公表した。同書は、初学者の大学院生らを対象とし、大蔵経研究の手引書として活用してもらうことを念頭に執筆したので、本プロジェクトのアウトリーチ活動と位置付けることができる。同書に関連したエッセイ、記事も 2 件執筆した。

また、〈阿闍世王経〉に見える「順忍」に関する記述に関連して、初期経典より部派典籍、大乗経典における「順忍」の記述について調査・検討した研究成果の論文 2 篇を発表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 宮崎展昌	４．巻 99
２．論文標題 蔵訳『阿闍世王経』第III章後半部分訳注研究	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大谷学報	６．最初と最後の頁 37-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宮崎展昌	４．巻 110
２．論文標題 蔵訳『阿闍世王経』第I章前半部分訳注研究	５．発行年 2019年
３．雑誌名 仏教学セミナー	６．最初と最後の頁 29-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宮崎展昌	４．巻 37
２．論文標題 蔵訳『阿闍世王経』第Ｉ章後半部分訳注研究	５．発行年 2020年
３．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	６．最初と最後の頁 157-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宮崎展昌	４．巻 107
２．論文標題 初期経典および部派論書にみられる「順忍」に関する記述	５．発行年 2018年
３．雑誌名 仏教学セミナー	６．最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮崎展昌	4．巻 108
2．論文標題 大乗経典における「順忍」に関する記述の諸相―特に「無生法忍」との関連に注目して	5．発行年 2018年
3．雑誌名 仏教学セミナー	6．最初と最後の頁 27-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮崎展昌	4．巻 36
2．論文標題 蔵訳『阿闍世王経』第III章前半部分訳注研究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 83-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮崎展昌	4．巻 4
2．論文標題 竺法護訳『普超三昧経』の日本古写経三種と版本大蔵経諸本の関係について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本古写経研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 37-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Miyazaki Tensho	4．巻 24
2．論文標題 Review: The Sutra That Expounds the Descent of Maitreya Buddha and His Enlightenment and The Sutra of Manjusri ’s Questions	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Mahapitaka, Newsletter New Series	6．最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮崎 展昌	4．巻 35
2．論文標題 ＜訳注研究＞蔵訳『阿闍世王経』第XI章 前半部分訳注研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 163-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮崎 展昌	4．巻 97-2
2．論文標題 蔵訳『阿闍世王経』第IV章訳注研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大谷學報	6．最初と最後の頁 83-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮崎展昌	4．巻 65-1
2．論文標題 高麗大蔵経初雕本所収の『普超三昧経』について	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『印度學佛教學研究』	6．最初と最後の頁 492-488
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮崎展昌	4．巻 34
2．論文標題 蔵訳『阿闍世王経』第II章訳注研究	5．発行年 2017年
3．雑誌名 大谷大学真宗総合研究所研究紀要	6．最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　4件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 宮崎展昌
2．発表標題 日本古写一切経諸本の相互関係：〈阿闍世王経〉漢訳2種を対象として
3．学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会（発表受理）
4．発表年 2020年

1．発表者名 Tensho MIYAZAKI
2．発表標題 A Preliminary Survey of the Bhutanese Kangyurs: with Reference to the Ajatastrukaukrtyavinodana
3．学会等名 Canons, Kanjurs, and Collections: Multidisciplinary Approaches in the Study of Tibetan Canonical Literature: A Symposium in Honour of Helmut Tauscher （発表受理）（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 Tensho MIYAZAKI
2．発表標題 Relationships among the Jiangnan Canons (江南諸蔵): Focusing on the Two Chinese Versions of the Ajatasatrukaukrtyavinodana
3．学会等名 19th Congress of the International Association of Buddhist Studies (IABS) （発表受理）（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Tensho Miyazaki and Kiyonori Nagasaki
2．発表標題 Toward the Next Research Environment for Buddhist Studies: Attempts in the SAT Database
3．学会等名 Center for Buddhist Studies Conference “TRIPITAKA FOR THE FUTURE: Envisioning the Buddhist Canon in the Digital Age”（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 宮崎展昌
２．発表標題 仏典における弥勒に関する記述の諸相―インド撰述文献を中心にした準備的調査
３．学会等名 大谷大学真宗総合研究所東京分室公開研究会第7回「宗教と人間」研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 宮崎展昌
２．発表標題 『普超三昧経』の日本古写一切経三種および刊本諸大蔵経所収の諸本について
３．学会等名 国際仏教学大学院大学・日本古写経研究所 平成 29 年度第 1 回公開研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Miyazaki, Tensho
２．発表標題 Relations among Old Japanese Manuscripts of Buddhist Scriptures and Woodblock-Printed Buddhist Canons: With Reference to the Puchao sanmei jing 普超三昧経
３．学会等名 The XVIIIth Congress of the International Association of Buddhist Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮崎展昌
２．発表標題 「順忍」の諸相―初期経典・部派文献・大乗経典にみられる展開と変容
３．学会等名 大谷大学仏教学会　2017年度研究発表例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮崎展昌
２．発表標題 高麗大蔵経初雕本所収の『普超三昧経』について
３．学会等名 日本印度学仏教学会　第67回学術大会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計3件

１．著者名 下田正弘、永崎研宣、小野基、船山徹、石井清純、八尾史、宮崎展昌、宮崎泉、苫米地等流、蓑輪顕量、李乃琦、王一凡、青野道彦、落合俊典、高橋晃一、大向一輝	４．発行年 2019年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 383
３．書名 デジタル学術空間の作り方：仏教学から提起する次世代人文学のモデル	

１．著者名 宮崎展昌	４．発行年 2019年
２．出版社 方丈堂出版	５．総ページ数 304
３．書名 大蔵経の歴史―成り立ちと伝承	

１．著者名 藤井淳（編著）、山田俊、田林啓、齋藤智寛、金志{王+玄}、宇佐美文理、坂内栄夫、崔鉉植、石井公成、宮崎展昌、中西俊英、中西竜也	４．発行年 2017年
２．出版社 京都大学人文科学研究所	５．総ページ数 417
３．書名 古典解釈の東アジア的展開：宗教文献を中心として	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考